

No.1 『水質事故未然防止の取り組み』（環境部水地盤環境課）

<p>現状と課題</p>	<p>河川等に油等が流出する水質事故については、本県では例年約 100 件程度の通報があり、都度当課や各地方機関、関係部署にて連携して対応している。</p> <p>水質事故のうち、事業場由来のものについてはその多くが単純な見落としや注意不足等に起因するにも関わらず、従来は個別の事後対応が主であり、広く未然防止を啓発する取り組みがなかった。水質事故は、水という県民にも身近な環境の汚染に繋がるものであり、その低減には未然防止についての意識の向上が課題であった。</p>
<p>目標</p>	<p>水質事故に関する県内事業者の取り組み意識強化及び未然防止の推進</p>
<p>取組内容 (プロセス・体制等を含む)</p>	<p>過去の水質事故の事例を解析し、「意識」、「管理」、「設備」といった各業種共通の切り口から、要因や未然防止対策のポイントを抽出した。抽出したポイントをもとに、以下の取り組みを行った。</p> <p>①水質事故未然防止の啓発リーフレットを作成し、ホームページに掲載した。</p> <p>②県内事業者向けに、未然防止の説明会を実施した。特に、視覚的に分かりやすい説明資料を用いることで、要因や未然防止のポイントについて確実に伝えるよう努めた。</p> <p>③事業者が社内体制の見直しに使えるチェックリストを作成し、説明会での配布、ホームページ掲載を行った。</p> <p>以上の取り組みにより、県内事業者の水質事故への意識向上を図った。</p>
<p>成果 (その他のアピールポイントを含む)</p>	<p>説明会では、県内約 90 社の事業場から 110 名の参加を頂いた。参加者へのアンケート結果においては、「改めて未然防止の重要性を認識できた」、「意識向上等、社内展開ができる」等の前向きなコメントに加え、90%以上の参加者から「水質事故未然防止を考えるうえで有効」との回答を得ることができた。</p> <p>参加した事業場や関連会社における日常管理の見直しや、整備したチェックリストの活用等により、県内事業場のヒヤリハット低減に繋げることができたと考える。また、過去の事例を解析して改善に繋げることで、県の水質事故防止に向けたPDCAの流れが構築できたことも有効と考える。</p>
<p>残された問題点等</p>	<p>今回の説明会等により周知ができた事業場は、膨大な数の県内事業場のごくごく一部に過ぎない。実際に水質事故件数の低減に繋げていくには、対象や説明内容を変える等の工夫をしながら、継続的に取り組んでいく必要がある。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>水質事故未然防止の説明会については、継続開催の要望もあり、今後も継続して実施していきたい。また、初回は特に対象を限定せず「広く」周知を図ったが、今後は例えば業種ごと等、ある程度対象を絞った説明会も開催していきたい。「特定の対象への」「深い」周知も併せて行っていくことで、環境首都あいちに向け、総合的に水質事故の未然防止を図っていきたいと考える。</p>

〈取組内容〉

水質事故の未然防止にご協力をお願いします

水質事故をなくそう!

啓発リーフレットを作成

事業者が社内体制の見直しに使えるチェックリストを作成

事業場向けに未然防止の説明会を開催

水質事故未然防止のためのチェックリスト 参考

◆知識・意識について	チェック内容	チェック欄
	取り扱っている薬品類の基本的な性状、環境影響を把握しているか?	
	排水の発生源から場外への排出経路を具体的に知っているか?	
	自社の排水・廃液処理方法について把握しているか?	
	主担当のみでなく、関係部署の担当者や新規従事者に、必要な知識が周知されているか?	

◆作業方法について	チェック内容	チェック欄
	薬品や油等について、不安定パルプ類の開閉について、操作か?	

◆工事について	チェック内容	チェック欄
	工事内容が、関係者全員に周知されているか?	
	工事業者に対し、環境対策の徹底が図られているか?	
	工事の際に起こり得る事故を防止できているか?	

No.2 『エクセルを用いた広報資料の管理の効率化』
 (総務部尾張県民事務所県民安全課相談・旅券グループ)

現状と課題 尾張県民相談室では、常時1千種類を超える広報資料の管理を、従来から単純なエクセルの表を使用して行ってきた。個々の資料に係るデータ入力、有効期間内・外の判定、本庁への定期報告のための帳票作成等はすべて担当者の手作業で、煩雑な作業となっていた。大量のデータの管理を目視で行ってきたことから、稀に、期間経過後の資料を配架し続けるなどの見落としも生じていた。また、試験案内やイベントなどに係る県民からの問い合わせに対して、迅速・的確な回答が難しい状況でもあった。

- 目標**
- ①資料管理を視覚化して有効期間前・後の配架ミスをなくすとともに、問い合わせ対応の迅速化を図る。
 - ②エクセルの機能の活用により、担当者の作業負担を極力軽減する。
 - ③同じ業務を行っている他の事務所にも提供し、全体として業務の効率化及び運用の統一を図る。
 - ④有効期間管理を行う他業務での活用が可能となるよう、汎用性を持たせる。

取組内容 (プロセス・体制等を含む) 資料管理の的確化及び担当者の負担軽減のため、エクセルの機能を活用した新たなツールの検討・作成を平成27年度後半から開始し、試行を経て、他の事務所とともに平成28年9月から利用を開始した。主な機能、試行における改善点等は次のとおり。

- ①資料データの行を配架期間・配架状況によって自動で色付けする機能を設け、視覚的な管理を可能とした。併せて、配架中の資料のみを抽出したシートを自動生成する機能も設けた。
- ②フォームを作成して入力作業の定型化・確実化を図るとともに、既存の他のシートからのインポート及び報告用帳票の自動生成の機能も設けた。
- ③他事務所での試行において意見をいただき、表示形式や機能等について可能な範囲で改善を行った。
- ④入力フォーム・帳票の見出しについて、元データを修正することで自動反映する機能を設けた。併せて、報告用帳票については、抽出条件を一定の範囲で変えられるようにした。

成果 (その他のアピールポイントを含む) 作業量の削減効果は、当事務所だけで年間約120時間と試算しているが、今回の主要な効果は管理の視覚化・作業の自動化による担当者の煩わしさの軽減と考えている。また、作成の過程において主務課及び他事務所の協力を得られたことで、環境の異なる窓口でも利用可能なツールとすることができた。作成に当たっては、エクセルの標準機能の利用を前提に、作りこむ範囲をなるべく最小限に留め、将来的なエクセルのバージョンアップの際にも影響が軽微となるよう工夫した。

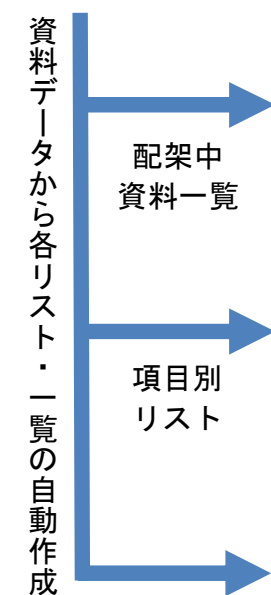
残された問題点等 他事務所での試行を2か月間ほど行い、不具合の是正や機能・形式の改善に努めてきたが、状況と使い方によっては内蔵するマクロのエラーが発生する可能性も否定できない。表計算ソフトのエクセルをベースにしたため、利用者に分かりにくいと思われるような操作もあることから、今後、可能な範囲で改善に努めていきたい。

今後の方向性 このツールは広報資料を対象としたものであるが、一定の汎用性を備えていることから、有効期間・期限の管理を必要とする他の物品・サービスにも活用できる可能性がある。当面は、当事務所における他業務での活用について検討していきたい。また、可能な範囲で他の事務所・部局でも活用していただければ幸いである。

『配付資料一覧表』の相関図

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1	通番	入力年月日	資料名	種別	受領数量	架設開始年月	架設終了年月	配架場所	残り日数	配架中					
20	1	2016.05.09	ジュリエット	試験	50	2016.12.01	2016.12.15	AAAA A1							
21	2	2016.05.09	キロ	冊子	50	2016.12.01	2016.12.15	AAAA A2							
22	3	2016.05.09	リマ	冊子	50	2016.12.01	2016.12.15	BBBB B3							
23	4	2016.05.09	マイク	リーフレット	50	2016.12.01	2016.12.04	AAAA A2							
24	5	2016.05.09	ノーヴェンバー	リーフレット	50	2016.12.01	2016.12.11	BBBB B2							
25	6	2016.05.09	オスカー	ちらし	50	2016.12.01	2016.12.15	AAAA A1							

配架日時や配架状況に応じて色分け



A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	通番	資料名	受領数量	架設開始年月	架設終了年月	配架場所	残り日数		
2	13	マイク	50	2016.12.01	2016.12.04				
3	10	ジュリエット	50	2016.12.01	2016.12.15				
4	11	キロ	50	2016.12.01	2016.12.15				
5	14	ノーヴェンバー	50	2016.12.11	2016.12.16				

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
資料受入枚数調										2016年12月
1	通番	受領年月日	資料名	種別	受領数量	架設開始年月	架設終了年月	部局名	課室名	グループ名
3	1	2016.12.01	ジュリエット	試験	50	2016.12.01	2016.12.15	AAAA	A1	
4	2	2016.12.01	キロ	冊子	50	2016.12.01	2016.12.15	AAAA	A2	
5	3	2016.12.01	リマ	冊子	50	2016.12.01	2016.12.15	BBBB	B3	
6	4	2016.12.01	マイク	リーフレット	50	2016.12.01	2016.12.04	AAAA	A2	
7	5	2016.12.01	ノーヴェンバー	リーフレット	50	2016.12.11	2016.12.16	BBBB	B2	
8	6	2016.12.01	オスカー	ちらし	50	2016.12.15	2016.12.28	AAAA	A1	
9	合計				300	6項目 4種類		冊子:2件 リーフレット:2件 他:2件		

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J			
平成 年度 広報資料等配付状況										項目選択	1/1	印刷
部局名 (AAAA) No. 1												
1	受領年月日	課室名	資料名	配架期間	数量		種別	備考				
					受領	残数						
14	2016/12/1	A1	ジュリエット	2016.12.01 - 2016.12.15	50	0	試験					
15	2016/12/1	A1	オスカー	2016.12.15 - 2016.12.28	50	0	ちらし					
16	2016/12/1	A2	キロ	2016.12.01 - 2016.12.15	50	0	冊子					
17	2016/12/1	A2	マイク	2016.12.01 - 2016.12.04	50	0	リーフ					
19	合計										11 項目	

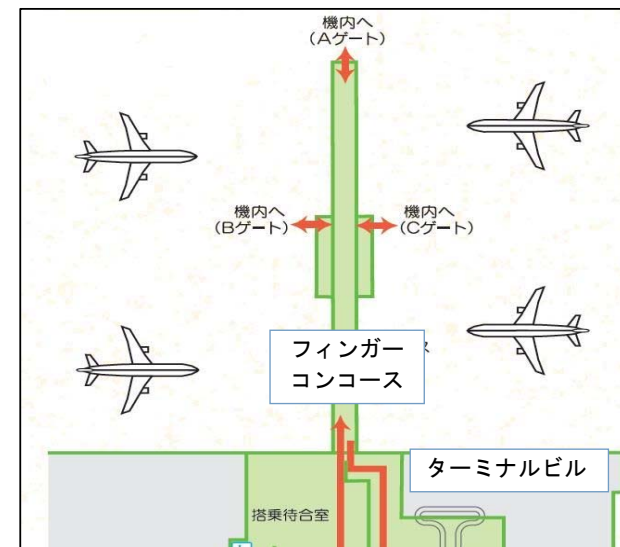
No.3 『県営名古屋空港エプロンへの旅客動線の設置』（振興部航空対策課）

<p>現状と課題</p>	<p>県営名古屋空港には、旅客ターミナルビルから航空機に乗り込むためのボーディングブリッジが設置されていないため、旅客はフィンガーコンコースとエプロン上を歩いて航空機まで移動している。</p> <p>一部スポットにはエプロンルーフがあるため、旅客はルーフの中を歩いて航空機の機側まで移動できるが、他のエプロンルーフの無いスポットについては、旅客が他の航空機に近づいたり、広がったりしないようにするため、係員の誘導に加え、より安全に移動できる手段の検討が必要であった。</p>
<p>目標</p>	<p>安全・保安のため旅客が整然と移動するようにする。</p>
<p>取組内容 (プロセス・体制等を含む)</p>	<p>空港のエプロン上に旅客動線を設置した。</p> <p>【設置概要】 動線の長さ：約47m×2本 設置経費：約15,000円</p>
<p>成果 (その他のアピールポイントを含む)</p>	<p>エプロン上に旅客動線を設置したところ、皆これに沿って通行するようになり、安全上・保安上大きな改善を図ることができた。</p>
<p>残された問題点等</p>	<p>今回は、エプロンルーフのない4スポットのうち、試行的に1カ所で実施したものであるが、結果として、大きな改善が図られたことから、残る3スポットについても実施に向け調整していくこととしたい。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>引き続き、安全の向上に資する取組を促進するため、空港内の事業者からの安全情報を積極的に収集するよう努めていく。 (例：安全情報報告強化月間の設定など)</p>

〈現地の様子〉



【参考】フィンガーコンコースとエプロンルーフ

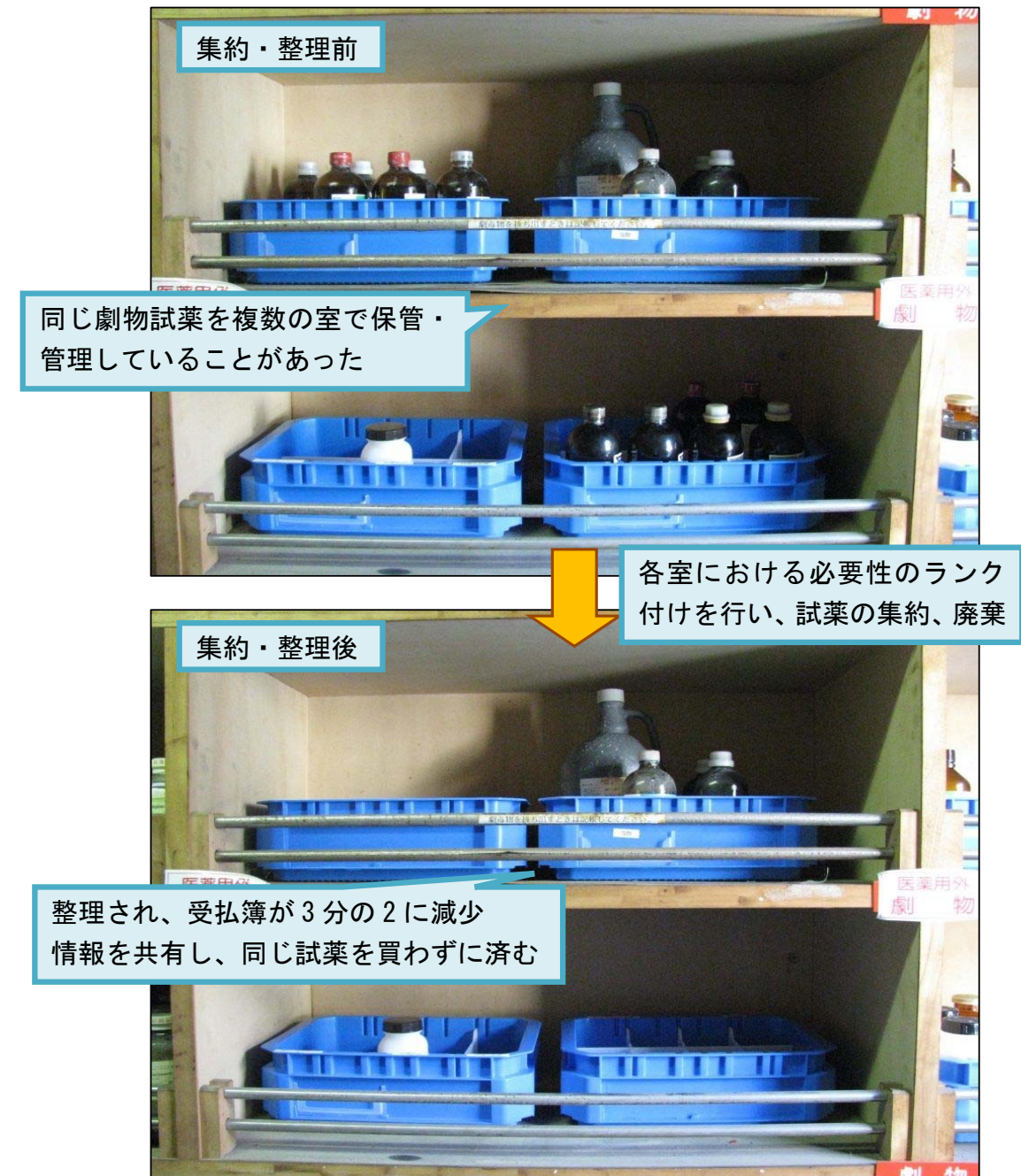


No.4 『保有劇物試薬の集約と整理』

(産業労働部あいち産業科学技術総合センター食品工業技術センター分析加工技術室)

<p>現状と課題</p>	<p>当センターは化学分析・実験を行うため、多数の薬品を保有している。そのうち、毒物や劇物などの法規制のある試薬については内規に従い試薬毎に受払簿を作成し、使用量・保有量を厳密に管理している。</p> <p>試薬は室毎に購入・管理しているため、同じ劇物試薬を複数の室で保有し管理していることがある。管理が重複する分、受払簿も多くなり、各室の薬品管理担当者は毎月の使用量・保有量確認作業が負担となっていた。</p>
<p>目標</p>	<p>保有劇物試薬の管理方法を見直し、管理の効率化を図る。</p>
<p>取組内容 (プロセス・体制等を含む)</p>	<p>保有する劇物試薬の使用頻度は各室で異なり、中には年1回以下の使用頻度のものもあった。そこで、これまでの使用頻度や今後その劇物試薬を使用する分析・実験を行う可能性等から、個々の劇物試薬に各室における必要性のランク付けを行った。</p> <p>この必要性ランクに基づき、複数室が保有する劇物試薬については必要性ランクの高い室に集約して管理することとした。また、ランクが低く経年劣化等変質の恐れがある試薬及び集約することにより過剰となった試薬の廃棄処分により、劇物試薬を整理した。</p>
<p>成果 (その他のアピールポイントを含む)</p>	<p>受払簿が3分の2に減少し、担当者の業務負担が軽減された。</p> <p>集約することにより、開封後使い切れず保管していた余剰試薬が整理され、品質管理がしやすくなった。</p> <p>各室が保有する劇物試薬について情報を共有することにより、試薬購入時に他室が保有している劇物試薬を買うことがなくなった。</p>
<p>残された問題点等</p>	<p>使用頻度は低い業務上必要なため廃棄できない試薬はセンターとして集約管理する案もあったが、内規及び二重チェックの観点から各室での分散管理となり、薬品管理担当者の業務負担低減には繋がらなかった。</p> <p>また、劇物試薬を使用して調製された試験用溶液等(製剤)が劇物の条件に当てはまる場合は、劇物として管理するため新たに受払簿を作成しているが、この製剤については他室に同様の製剤があっても濃度等規格が違うため集約することができなかった。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>劇物試薬の使用頻度や必要性は定期的に見直し、保有量削減に努める。</p> <p>法規制のない一般試薬についても、同様に各室の保有量を情報共有することにより、保有試薬量を削減していきたい。</p>

〈集約・整理の状況〉



No.5 『イベントカレンダーの作成』

(農林水産部農林政策課広報・調整グループ)

現状と課題	農林水産物のPRイベント等、農林水産部の各所属は、様々なイベントを実施したり、他所属実施の関連イベントに協力しているが、それらの情報は、記者発表資料等から個々に把握している状況であった。 また、各種イベント来場者の増加も課題であった。
目標	部内職員の誰もがイベント情報をいつでも把握できる状態にし、職員自身やその家族がイベントに多く参加するだけでなく、職員ひとりひとりが広報役を担い、イベントの実施について広くPRする。
取組内容 (プロセス・体制等を含む)	部内各課に照会をかけてイベントカレンダーの作成及び内容の更新を行い、毎月の初回の農林水産部課長会議で配布する。課長会議後、積極的に部局掲示板を利用し、速やかに部内に周知する。
成果 (その他のアピールポイントを含む)	職員が自分の課室のイベントに限らず、他の所属のイベントにも参加してみようという気運が高まった。 なお、同様の取組は、他部局においても可能であるので、全庁的な横展開が期待できる。
残された問題点等	記者発表前のイベントに関する情報が含まれる場合は、そのまま公表できないため、部外への情報提供が難しい。
今後の方向性	公表前のイベント情報の取扱いに留意の上、同様の取組を他部局も実施すれば、各部局のイベント情報の共有が図られ、これにより、県職員が所属のイベントだけでなく、他部局のイベント等にも率先して参加することにつながるができる。

〈参考〉

年度	開催日	行事・イベント名	会場
2016 (H28)	10/11(火)~10/21(金)	羽布ダム水源地域交流フェスタ パネル展示	羽布ダム管理所
	10/13(木)~	あいちおもてなし花壇	県本庁舎正面花壇他
	10/22(土)~10/23(日)	あいちのカキフェア（生産者による試食宣伝を10/23に実施）	イオン熱田店
	10/22(土)~10/23(日)	羽布ダム水源地域交流フェスタ よってらっ彩みてらっ彩 ブース出展	豊田市役所下山支所
	10/22(土)	たまニゴ2016愛知大会（主催：(一社)愛知県養鶏協会、後援：愛知県）	もつくる新城
	10/23(日)	食肉・花き市場まつり2016 （主催：食肉・花き市場まつり実行委員会、県はブース出展）	名港花き地方卸売市場
	10/23(日)	第5回紅茶フェスティバル（県茶業連合会が出展）	スカイワードあさひ（尾張旭市）
	10/29(土)	水産試験場公開デー	県水産試験場
	10/29(土)~10/30(日)	第10回人と自然の共生国際フォーラム	中央卸売市場ふれあい市場
	10/30(日)	中央卸売市場2016ふれあい市場	中央卸売市場ふれあい市場
	11/3(木・祝)	本庁舎公開イベント（県産農林水産物の販売）	県本庁舎
	11/4(金)~11/5(土)	商店街逸品名品テストマーケット2016（いいともあいち推進店が出展）	金山総合駅イベント広場
	11/5(土)~11/6(日)	全国ご当地うどんサミット2016 in 蒲郡（主催：全国ご当地うどんサミット開催委員会、県は委員会構成員及びブースを出展）	みなとオアシスがまごおり
	11/5(土)~11/6(日)	あいち花フェスタ2016 プレステージ	J Aあいち海部総合支援センター他
	11/5(土)	農業総合試験場公開デー	県農業総合試験場
	11/9(木)~11/14(月)	あいちの農林水産フェア	名古屋栄三越
	11/11(金)~11/12(土)	農林水産祭りのフェスティバル （県産農林水産物の即売、パネル展示等の実施）	サンシャインシティ（東京都）
	11/12(土)	森と緑づくり体感ツアー	みよし市内他
11/17(木)	白菜の収穫とキムチ作り体験	J Aあいち豊田白菜部会員ほか	

各課、各地方機関のイベントを
部内職員がいつでも把握できる

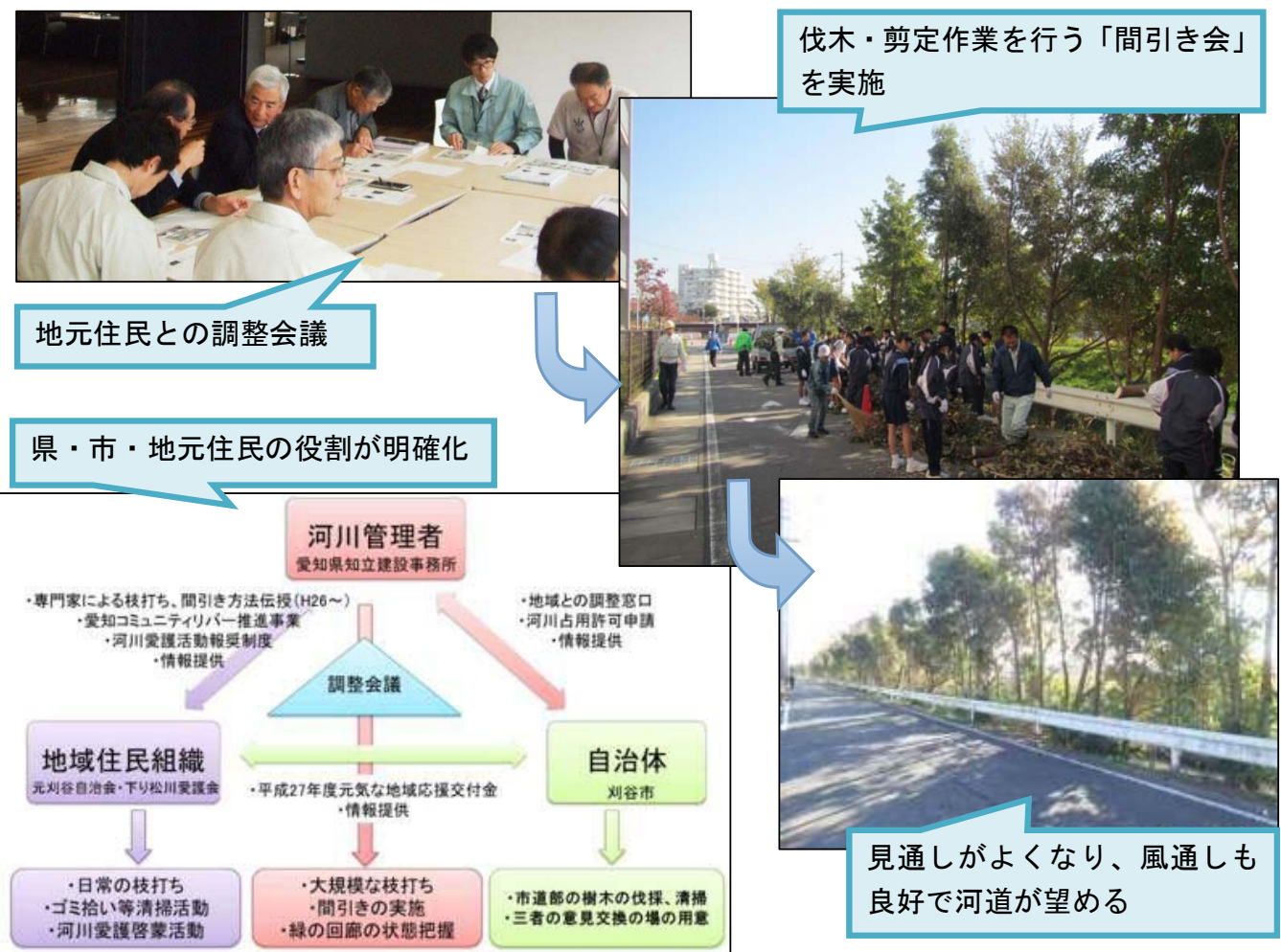
No.6 『市民協働による植樹から管理手法の確立まで（「^{さが}下り松川水辺の緑の回廊」）』
（建設部知立建設事務所）

<p>現状と課題</p>	<p>下り松川の延長約1,800mの区間において、平成13年から平成17年の5年間に、面積約2,500㎡にわたり、地域住民のべ1,000人が参加して12,000本もの植樹を行う「水辺の緑の回廊」整備事業が実施された。 植樹から10年以上経過し、約束された地域住民による管理が適正に実施されていなかったため、新たに行政と地域住民の協働参加による管理手法を確立する必要があった。</p>
<p>目標</p>	<p>地元住民が、河川環境整備の理解を深め、地域の環境問題としての意識を共有することにより、河川と地域の関係が再構築できるような維持管理手法を検討し、地元住民主導の自発的な協働参加による継続的な河川環境の美化・保全を実現する。</p>
<p>取組内容 (プロセス・体制等を含む)</p>	<p>平成25年度に地域と行政の協働事業として、大規模な伐木・剪定作業を行う「間引き会」を実施したものの、剪定手法等の誤りから、見通しや見栄えが悪化することになった。 そこで平成26年度には新たな伐木・剪定手法を設定し、専門家による伐採技術のレクチャーを受け、さらに平成27年度には前年剪定箇所のモニタリングや地元の意見を活かした剪定手法の最適化を検証するなどし、地元住民による継続的な維持管理が可能となるよう伐木・剪定手法等の検討と改善を重ねた。 ＜伐木・剪定手法の改善案＞ ① 見通し・風通し・日差しを改善するために目線の高さで剪定する ② 通行の妨げを防ぐために道路に飛び出している枝を剪定する ③ 雑草や胴吹きを防止し日常管理を容易にするために樹冠を維持する</p>
<p>成果 (その他のアピールポイントを含む)</p>	<p>地元住民による協働参加により、見通し、風通しも良好で、適度な日差しと圧迫感のない河畔林を日常の維持管理によって対処可能な状況を確認することができた。 また、間引き会の実施や検討会議を通じた地元住民の維持管理意識の高まりから、構成人数約100人の「下り松川愛護会」が発足するとともに、県・市・地元住民のそれぞれの役割が明確化し、「下り松川水辺の緑の回廊」の維持管理モデルを確立することができた。</p>
<p>残された問題点等</p>	<p>協働参加に係る県・市・地元の役割の明確化は、発足した「下り松川愛護会」の責務の明確化にもつながることとなる。現在は、地元住民が剪定等に関する技術やノウハウを習得し、日常管理を行っていただいているが、地域の環境問題としての意識・理解を継続的なものとしていかなければ、再び「水辺の緑の回廊」整備事業後の状況に陥る可能性がある。</p>

今後の方向性

地元住民の協働参加による維持管理手法は、様々な社会インフラにおいて検討・実施されているが、この維持管理モデルは、河川環境整備における全国的な共通課題を解決する有効な手段となるものと考えられる。
地域環境の維持管理は、できる範囲で自主的に地域住民が行い、これら維持管理活動を通じて自治体との協働体制を確立していくためには、要求から参画への地域住民の意識の変化とともに自主的な活動組織の形成が必要となるものと思われる。
今回確立した維持管理体制を「下り松川モデル」として、少なくとも県内における他の「水辺の緑の回廊」における管理方法としても活用できるよう、具体事例として発信していきたい。

〈取組の内容〉



No.7 『悪条件下対応型密着靴カバー』（警察本部警備部機動隊）

<p>現状と課題</p>	<p>災害現場、水難現場等は「ぬかるみ」「泥場」など足場が安定せず悪条件下での活動を余儀なくされることが多々ある。 このような場所での活動時の装備品は、現状では「長靴」「胴長」を使用するが、構造上靴から足が浮き、動きづらく、足をとられる、すくわれるといった危険性に配慮する必要がある。 その結果、作業者のストレスが増し、作業自体が思うように進まず、現場活動に求められる迅速円滑な作業の妨げとなるという課題があった。</p>
<p>目標</p>	<p>ぬかるみ、泥場等の足元が不安定な場所における作業者の負担軽減、作業効率の改善を図ること、およびその保管、運搬から着脱に至るまでの取扱い全般における有用性の向上を目標とした。</p>
<p>取組内容 (プロセス・体制等を含む)</p>	<p>従来の「靴」を履き替えるという形から発想転換し、靴の上から足全体を包み込む形でフィットさせることができる「カバー」であれば、課題を解消し、足元に気を取られることなく作業を安全かつ迅速確実に達成できると考えた。 同様のものが市販品にはないことから、新たな試みとして、ゴム生地を切り縫いして一から作製した。 なお、ゴム素材は柔らかく防水性の高いクロロプレンゴムを使用した。</p>
<p>成果 (その他のアピールポイントを含む)</p>	<p>従来の動きにくさが改善され、ぬかるみ等でも足をとられる等の危険性が大きく減少したことで、作業者のストレスが軽減され、作業効率についても大幅に向上した。 また、靴を履き替えるという煩わしさがなくなり、さらにわずか数秒で容易に装着できることから素早い立ち上がりが可能となったうえ、折りたたんでコンパクトにまとめることができるので、かさばらず、保管、持ち運びについても容易となり、取扱いにおける有用性が大きく向上した。</p>
<p>残された問題点等</p>	<p>使用したゴム素材は、伸びには非常に強いが、切り、裂けにはやや強度が劣る。その対策として靴底には、土中の釘、ガラス等の危険物対策として踏み抜き防止素材を採用し強化を図った。 今後は、カバー全体について、安全性向上の観点からもゴムの強度をより高くする方策を検討していく必要がある。</p>
<p>今後の方向性</p>	<p>今後、さらに改良等を重ね、効果等を検証し、実用化を目指す。 複雑な形状ではないので、安価での大量生産も十分可能と考えられる。 また、今回は主に「ぬかるみ」「泥場」に焦点をあてて取り組んだが、使用したゴム生地には耐熱性、耐薬品性もあるので、汚染区域、靴を汚したくない場所など幅広い目的、場所での応用使用が可能になると考えられる。</p>

〈参考〉

**靴を履いたままその上から重ねて履くことができる！
靴を履き替える必要なし！**

カバ-

生地の厚さ わざか1mm

素材 クロロプレンゴム

伸縮性があるので 足全体に隙間なくフィット

[防水][保温] 効果あり

事故防止 効率改善

負担軽減 コンパクト

活動状況

従来...胴長・長靴 ぬかるみでは...水を多量に含んだ泥が重く靴が埋もれる

重い...

靴が抜けにくい...

足だけ抜けた...

思うように力が入らないので 足抜きがうまくいかない...

前に歩けないので 作業が進まない...

転倒の危険性も...

↓ [悪条件下対応型密着靴カバー]を使用することで ↓

足抜き抜群!

動きやすい!

作業効率UP!

土中のガラス・釘等 危険物対策として 靴底に「踏み抜き防止インソール」を採用した

完全防水なので 衛生面も問題なし

カバーが足に密着しているので 力がダイレクトに伝わる!

生地が薄いので 違和感なし!

取扱い

持ち運び楽々

着脱

背面に防水チャック 引き上げるだけ

移動

見た目スッキリ 違和感なし

保管

かさばる... スペースが...

コンパクトに収納可能 スペースを取らない

小さくまとまる 携帯にも便利

着脱も容易

陸上での移動もOK